

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471200073		
法人名	特定非営利活動(NPO)法人 オーバー		
事業所名	グループホーム ももたろう		
所在地	豊後大野市清川町三五686番地		
自己評価作成日	平成22年3月3日	評価結果市町村受理日	平成22年5月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	平成22年5月 公表予定
----------	--------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽農21番1の212 チュリス古国府庁舎番館1F
訪問調査日	平成22年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員全員が利用者が家庭にいたらどうするかを意識し、家庭的な環境を作るように努め、利用者がしたい時に、したいことを可能にするよう努め、またそれを可能にするための方法を常に模索している。その他、自然環境をいかし、外での活動を多く取り入れている。また、利用者家族もスタッフの一員との考えから、困った時等には協力してもらえる体制を作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住み慣れた地域の中でゆっくり、じっくり時間に追われない毎日をご過ごして頂ける様、職員全員で理念について話し合い、理念を新しく作り変えた。利用者も職員も家族の一員として、自宅にいる感覚で毎日の生活を送れるような外出支援であったり、玄関や居室のはきだしのカギをかけない、またいつでも入浴できるお風呂体制であるなど、少人数を生かした取り組みを行っている。敷地内の畑では以前農業をされていた方が野菜を作り、調理は苦手だが洗濯物はたたむのが得意な方など、その人、その人にあった出来る限りのことが出来るように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念も5年間変わらずで話合ってきたが、今回理念を変更した。職員が困った時の参考になる理念にした。	職員全員で話し合い今までの理念を見直し、新しい理念が掲げられている。日々の中で職員ひとりひとりが理念を理解し、利用者に関わる中で生かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事には積極的に参加し、地域の方々が気軽に立ち寄れる環境を作るよう努めている。	夕涼み会や公民館での地区お祭りにも参加、町内会の回覧を持っていたり、保育園の先生たちと焼き芋会を行ったり、かぐらの見学など野外活動にも積極的に交流が行われている。中学生の職場体験、養護学校生の受け入れと、地域に向け開放的な呼びかけが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が、困った時にはいつでも相談にこれるような環境作りに努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の意味も利用者や近隣の方々にも理解されるようになり、地域の方が行政への要望提示の場になっている。	市の職員や利用者の家族、地区の役員などの参加の元に推進会議が行われている。日々の活動報告を行い意見や要望を聞き貫の確保を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	常に連携をとり所長も連絡協議会の会長を務めている。	所長が連絡協議会の会長を務めていて市町村との連絡は取りやすい状況にある。利用者の紹介は年に1度くらいではあるが、職員には利用者の暮らしぶりなどを報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一切、なし 外出に対しても制限なし。	鍵をかけないケアに取り組んでいる。日中の外出も自由に出入りできるようにしている。職員全員が、自由な暮らしの大切さを理解し、見守りに徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特に言葉の虐待について職員に厳重に注意するよう指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	所長が成年後見業務を行っており、職員も十分理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面にて提示し十分な説明をおこなっている。家族も理解してくれている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見・希望は必ず反映するよう努め、十分な話し合いを実施している。	家族から苦情があった場合でも家族の身になって考えるように気をつけている。できるだけ多くの意見を聞くように面会時に家族との時間を持つように心がけている。そのことは日誌に記録し、閲覧するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に話し合い、職員会議をその機会に利用している。	職員会議は月1回行い職員の意見を聴く機会を設けている。勉強会も月1回(30分~40分)行い、日頃からコミュニケーションを図るよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に観察し、副所長は常に現場にて業務し、状態を所長に報告し、常に職員が働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回の職員研修(職場内)他外部研修にできるだけ参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会の企画で職員の相互施設での職員交換をし業務体験してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは本人・家族に見学・体験を自由にできるようにしている。なるべく本人が納得して利用してもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族も利用者と同様である。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査を行い見極めにつとめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は家族の一員として常に考え行動するよう指導している。また、その環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族もスタッフの一員との考えから、出来るだけ家族と協力しながらの支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の了解の元自宅での過ごす時間等を可能な限り実施している。	今までの人間関係を断ち切るようなことがないように入所してからの面会は制限しなくて、自由になっている。馴染みの家に帰ることもあり、可能な限り今までの生活を継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日、その時の状況に合わせ環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の方々とも依然、良い関係を保ち、また、その環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今、その瞬間を大切にし、その人の希望することの実現に向け常に考えている。	本人の思いや要望は日々の関わりの中で把握出来ていて、日々のケアに活かされている。本人の行動パターンを理解し、「今」を大切にサービスの提供が出来ている。	「今」だけの関わりでなく、一人一人の生活歴を知ること深く関わり、理解することができどのように暮らすことが最良なのか、深く検討することを望みます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・本人より十分な聞き取りをして、日々のケアに活かして行くよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に家族の意見を尊重しながら月に一回のミーティングで十分に話し合い、必要があれば医療機関・市等にも相談している。	全職員で話し合い作成した計画書が出来ている。家族や本人の思いも尊重されている。状態の変化の場合の計画書の見直しは出来ている。	本人の意向や家族等のアイデアを反映しながらの定期的な計画書の見直しを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきの部分までの記入に努めた、何でもノートを活用し、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応は、法人自体の考えであり、その日・その時の対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	常につとめている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	すべて、本人・家族が決定し、その希望に合わせて医療機関との連携に努めている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となり、受診の際は必ず付き添っている。家族にはその都度きっちりと報告を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置が無いため(産休中)協力医療機関への相談・指示で対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	良い関係を保っており、関係医療機関との連携も保たれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期についても家族・本人が希望する場合は、十分な話し合いのもと可能な限りの支援に努めている。	重度化に伴い、終末期までのケアを希望された場合、家族の意見を十分に考慮し、医師、看護師を交えての話し合いを行い、安心して終末期を迎えられるよう支援している。職員は実際に経験して思ったことをまとめ、対応の指針を作り、今後に生かしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療機関とも常に話し合い、対応に努め、訓練実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との合同訓練を実施するなど協力体制が取れるよう工夫している。	地域の公民館で、住民も参加しての救急措置法や、消火器使用法などを体験し、マニュアルの作成などに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには十分注意をはらいその人にあつた言葉かけを行うよう努めている。	一人一人のプライドを傷つけないような言葉かけを行い、トイレ誘導や、失禁時にも他の方にわからないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に自己決定を最優先して考えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそつて支援している	その日・その時を大切に、本人の希望を最優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を大切に個人の状況に合わせた食事を提供している。	食事の用意などを一緒にすることは難しくなつてきているため、おやつ作りの際には材料を混ぜたり、こねたりを手伝ってもらっている。また、職員も全員ではないが同じテーブルで同じものを楽しみながら一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療機関との相談のもと本人にあわせた支援を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後事の口腔ケアは常に声かけ・援助を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをケース記録に記入し把握し、できるだけのトイレでの排泄に努めている。	紙パンツを利用しているが、一人一人の排泄パターンを把握し、本人の様子やしぐさで察知し、トイレ誘導が出来る。また、おむつからトイレでの排泄に移行できた方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に取り組んでいる。また、医療機関とも常に相談しながら取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前・午後と本人が入りたい時に・その気になった時に入れる対応している。	毎日、一日中お風呂にはお湯をはり、いつでも入浴できるよう配慮している。入浴を拒否する人にもうまく声かけをしたり、脱衣場に暖房器具を設置するなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休憩したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	常に支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については職員で管理しており、誰が見ても確認出来るよう工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日には、本人の好物をだし通常のメニューとは別に本人の好みを買物に行き、食事の時提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出機会は、できるだけ多くするよう心がけ、地域行事には積極的に参加している。	毎日の散歩に加え、昔馴染みの家に行きたいなどの要望にこたえたり、日帰り温泉に家族とともに行き、職員も一緒に入浴したり、初詣に行き、帰りに食事をするなど、家族のような関係で積極的に外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の状況・家族との話し合いにより可能にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも自由にできる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に工夫している。	居室を周りに囲み、真中に掘炬燵を設け、どの位置からも職員の目が行き届くような配慮がなされている。壁には大きく引き伸ばした写真をはり、ほとんど居室に帰ることなく居心地のいいリビングで過ごす工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	できるだけ可能になるよう心がけている。利用がなくなるとだんだん決まってきた。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に本人の状況にあわせ工夫している。	家で過ごしていたように、ベットではなく布団であったり、家族との写真を貼ったり、仏壇を持ち込み、毎日お経をあげるなど、自宅にいるような雰囲気づくりを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家庭的な環境を壊さぬよう、安全に過ごせるよう常に工夫している。		